

中越地震から10年

館長 徳永 健一

2004年10月23日（土）午後5時56分、私は当時新潟日報社の事業局次長でした。当日は久しぶりの休めで畑仕事の後、自宅に戻るため新潟市北区の新井郷川沿いの道を車で走っていました。突然車の後輪が外れたようなゆらゆらとした振動が伝わり、車を止めて外に出ましたが、地面がまだ揺れ続け大きな地震だとわかりました。なんとその時、上司の局長はあの脱線した新幹線に閉じ込められていました。M6.8、最大震度7、死者68人、負傷4,805人、家屋の全半壊1万7千棟余、被害総額3兆円という大きな災害をもたらした中越地震の発生です。

あれから10年、中越地震10年の冠をつけた法隆寺展に続いて、9月からは「黒井健・絵本原画の世界展」を開催します。黒井健は新潟市出身で、日本を代表する絵本作家のひとりです。わが家の書棚に『ごんぎつね』が一冊だけ残っていました。娘に聞いたら『手ぶくろを買いに』が一番心に残っていると話してくれました。

色鉛筆やパステルを使った独自の技法で描き出された、やわらかな雰囲気は黒井健の世界です。今回の展覧会では、40年余りに及ぶ作家の創作活動の軌跡を、作家や物



『手ぶくろを買いに』僧成社
©KEN OFFICE, 1988

語との出会いなどもまじえ代表作品を見ることができます。中越地震後の故郷を訪れ描いた『ふる里へ』に代表される、美しい新潟の風景を描いた作品も展示されます。

中越地震の被害は近代美術館にも随所に見られます。タイルの剥離、擁壁のヒビや傾きなどが、21年目となった経年劣化とあいまって顕著になってきました。設備も使用限界に近づいているもの、時代にそぐわなくなったものもあります。

これからの10年、20年を考えるともっともっとお客様に喜んでもらえる施設にしなければなりません。5月に「大規模改修ワーキンググループ」を県の担当機関からも入っていただき、立ち上げました。職員だけでなく、お客様からも幅広いご意見をお聞きして、より良い美術館を目指したいと思っています。



『ふる里へ』明神 小学館
©KEN OFFICE, 2006



エドゥアール・ヴェイヤール〈風景と室内〉(1896-99年)より
「10.ヨーロッパ機で」当館蔵[前期展示]

コレクション・ストーリーズ —11年の物語

2015年2月3日(火)～4月5日(日) [前期:～3月1日、後期:3月3日～]

この11年間に収集された主な作品を、当館の名品とともに、それぞれのストーリーで紹介します。また、同期間に開催した展覧会とあわせ、当館の11年の物語を振り返ります。どうぞお楽しみに。

関連講座

2月28日(土) 14時より 講堂にて 無料

「コレクションと展覧会」講師: 学芸課課長代理 澤田 佳三

開館20年で272万人！ 新たな物語をかたちに。

近代美術館は2013年に、お陰様で開館20周年を迎えました。この20年間の総観覧者数は、272万1,375人です。(2014年3月末現在)これは、新潟県の人口約232万人(同)を超えています。

これまでの企画展別観覧者数ベスト10は、右表のとおりです。皆様には、どの展覧会や作品が思い出に残っているでしょうか。また、コレクションの数は、前身の県美術博物館時代の所蔵品を含めて約6千点に及びます。近美開館年度に収蔵した作品は、ドニの《夕映えの中のマルト》やコルヴィッツの《母と二人の子》など、今ではコレクション展の名品コーナーでお馴染みとなりました。今年度、10周年以降に収集した作品を掲載する3冊目の所蔵品目録を作ります。ご期待ください。

私たち職員にとって、お客様から書いていただくアンケートは、大きな励みとなります。時には、心温まるお手紙までいただきます。展覧会で出会った作品や作家が、子どもたちの考え方や生活までも前向きにしてくれたと聞くと、うれしくなります。

改善点をご指摘いただくことも、参考になりありがたいです。まずは、ご要望の多いトイレの改修を、今年の11月25日から年末にかけて休館にして行います。大切なコレクションを館とともに守って次代につなぎ、県民の皆様へ愛される美術館にするために、喜んでいただける企画展やイベントを考えていきます。

(副館長 立川 厚生)



ケーテ・コルヴィッツ《母と二人の子》
1932-36年 当館蔵

■ 20年間の企画展別観覧者数ベスト10

順	年	展覧会名	観覧者数(人)
1	2011	借りぐらしのアリエッティ×種田陽平展	175,686
2	1999	パリ・オランジュリー美術館展	161,278
3	2010	奈良の古寺と仏像	130,523
4	2002	マルク・シャガール展	123,209
5	1994	シカゴ美術館展	89,427
6	2004	ルーヴル美術館展	88,838
7	2001	エルミタージュ美術館名品展	82,877
8	1996	エルミタージュ美術館特別名品展	81,190
9	2013	館長 庵野秀明 特撮博物館	77,136
10	2012	北京・故宮博物院展	75,442

私とこの1点

昨今のブームに乗った訳ではありませんが、近ごろ妙に猫が気になります。猫が芸術の歴史に最初に登場したのは、4,000年以上も昔に遡るといわれています。当館の所蔵品にそこまで古いものはありませんが、200年あまり前に描かれたものを一つご紹介しましょう。

ご存知ゴヤの版画集《カプリエーチョス》の一葉ですが、見れば見るほど奇妙な光景です。組んずほぐれつ空を飛んでいる人たちは、何者なのでしょう。どう見ても重量オーバー。中心にいるのが「ママ」なのか……？ということは、空飛ぶ魔女と仲間たち(娘たち?)。上昇しているのか、下降しているのか、何とも不安な宙ぶらりん状態です。そんな極限状況に現れた一匹の猫。何をしているのでしょうか。への字に口をむすんで、真剣そのもの。結構いい面構えをしています。日傘をしっかりと握って、大腿を開いて風を受け、しっぽをくねらせて舵を切っています。大わらわの魔女の軍団に興味津々にちがいないものの、渦中に巻き込まれるようなドジはしません。つかずはなれずの絶妙な距離を保っています。

猫という生きものの不思議さ、その愛すべき魅力を垣間見せてくれる一点です。スペインの巨匠ゴヤが、実は猫好きだったという噂が巷に流れています。その真偽はさておき、観察眼と筆の冴えには脱帽せざるを得ません。

(学芸課課長代理 平石 昌子)

フランシスコ・ゴヤ・イ・ルシエンテス《カプリエーチョス》 65. ママ、どこへ行くの



フランシスコ・ゴヤ・イ・ルシエンテス《カプリエーチョス》
65. ママ、どこへ行くの 1799年刊行 エッチング等 当館蔵

ようこそキンビへ！ 鑑賞活動の様子から

小・中学校の学習指導要領では、鑑賞の活動が一層重視されており、本物に触れる意義は大きなものがあります。実際に昨年度は、保育園、幼稚園、小・中・高・特別支援学校、大学など130校以上の来館がありました。来館者はそれぞれ2～150人で、企画展やコレクション展の作品や作家について、随時学芸員との対話を交えながら鑑賞の楽しさを味わいました。

2年連続で来館し、対話型鑑賞活動を経験した先生から次のような感想をいただきました。

冊りのバスの中で「楽しかった」「また来たい」と子どもたちがつぶやいていました。本物に触れることで子どもたちの感動は大きく変わりました。学校の教室で図版を見るだけでは感じられない大きな感動が味わえることがよく分かりました。

作品から「読み取る」楽しさやお互いの感じ方を伝え合う活動を大切にしていきたいです。

子どもたちの柔軟で豊かな発想には、私たち大人はかないません。鑑賞は多様な見方や感じ方を学び合い、それらすべてが正解になりうる魅力的な活動です。自己肯定感を育む鑑賞の活動を、工夫・改善し続け、学校と連携した取組を今後も進めていきます。

(副参事 青木 善治)



「考える人」から考える



屋外彫刻となかよし



体験コーナー開催中

コレクション展や企画展に関連する体験コーナーを随時設けています。

ズベールの作品《V.I.P.》の中に描かれているものを見つけて描き、その見つけたものの名前を考えます。作品をじっくりと見つめ、作品に親しみをもてるコーナーを設置しました。

イベントレポート

「デジカメ・スマホでプロの技を！」(友の会との共催事業)



5月24日(土)、写真家 なかじょうまさのり 中條均紀氏を講師に迎え、ワークショップ「デジカメ・スマホでプロの技を！」を開催しました。被写体の選び方や構図の基本について、講義と実技を通して楽しく学ぶことができ、好評でした。定員を上回る申込みをいただき、参加者からは、「講評が明快であり励みになった」「第2弾を希望する」との声が寄せられています。それぞれの感性が発揮された写真が仕上がり、全作品を1か月間美術館内に展示しました。

(学芸課課長代理 佐藤 久美子)

これからのイベント

夏休み子どもアート (中越美術教育研究会との共催事業)

「リアル」へのチャレンジ

プロの技に学びながら、「リアル」な表現の楽しさを味わおう！

好きなコースを選んで参加してください

①「水滴を描く」 ②「植物を描く」

●期 日 8月19日(火) 13:00～17:00

●会 場 当館

●対 象 小学校5・6年生

●講 師 美術専門の教員

●参加料等 参加無料(※要事前申込) 先着30名(①②各コース15名)

夏休み

子どもアート作品展

参加者の作品を美術館内に展示します。

8/21(木)～8/30(土)

※8/25(月)休館

「伝統色ってなに？」(友の会との共催事業)

～和のいろを学ぼう！～

浮世絵をもとに
伝統色の美しさを感じ、うちわをつくろう！

●期 日 8月23日(土) 14:00～16:00

●会 場 当館

●対 象 一般(子どもも参加可)

●講 師 カラーコンサルタント 宮崎 朋子氏

●参加料等 参加料800円(※要事前申込)

先着30名





右/戦後の書 その一変相 江口草玄
新潟県立近代美術館
会期：1996年11月1日～12月15日

左/ゲンビ New era for creations
—現代美術懇談会の軌跡 1952-1957
芦屋市立美術館
会期：2013年10月19日～11月24日

「日展書道、入選を事前配分」、昨年10月30日の朝日新聞のトップ記事です。これがトップニュース！書道だけではないようですが、相も変わらず業界のヒエラルヒー維持のため、悪習が続いています。

63年前、書壇の因習に訣別した二人の県人書家がありました。江口草玄と中村木子。その二人を紹介したく、1996年に「戦後の書 その一変相 江口草玄」を開催しました。草玄氏（現在94歳）の作品を中心に構成しましたが、惜しむらくは、木子氏は活動から早く離れたため、作品を3点しか展示できなかったことです。

しかし、戦後の1950年代、この二人を含め、書が洋画、彫刻、陶芸、生花の作家たちと横断的に交流し、既成概念に囚われない新しい造形を探索した熱い時代が関西でありました。それが「現代美術懇談会(ゲンビ)」であり、1996年の展覧会でも、関連作家たちの作品を展示しました。

それから17年、日展問題が新聞を飾っていた時期、芦屋市立美術館で「ゲンビ」展が、若い学芸員によって開催され、当館も協力をしました。

再び見る作品に懐かしさというより、新しさ、熱い思いが再び伝わってきて、時代の高揚さに打たれました。

当館では鳴らすことが制限された田中敦子《ベル》のボタンを押し、会場内に連続して響き渡っていくベル音に心が弾みました。

古の歴史事象となってしまうかもしれませんが、作家たちのこの熱さ、作品の持つエネルギーは、全く色褪せていない。作品を生み出す人間の偉大さを見せつけられました。

改めて新潟の美術館として、草玄、木子を調査し、しっかりと、記録に留めておかなければと初心に戻った昨秋でした。

(専門学芸員 松矢 国憲)

近美のおすすめ



皆様は当館のレストラン「広告塔」を利用されたことはありますか？

店名は当館を代表する所蔵品の一つである、佐伯祐三の作品が由来で

す。エントランスを抜け、2階に位置する店内からは、季節ごとに化する東山連峰の美しい風景と共に食事をお楽しみいただけます。

和洋バリエーションに富んだメニューの中には、気さくなオーナーが展覧会に関連した食材を使用していることもあるので、ぜひ探してみてください。

作品をご鑑賞後、落ち着いた空間でゆっくり余韻に浸りながら、アートな一日をお過ごしください。(嘱託員 関 紗織)

編集部からのひとこと

美術館では年間を通してさまざまなイベントを開催しています。今回紹介したワークショップや体験コーナーだけでなく、美術鑑賞講座、映画鑑賞会、作品解説会…など、いろいろな角度から展覧会をより楽しむことができます。最新の情報はチラシや当館ホームページをチェックしてみてください！

(美術学芸員 伊澤 朋美)

お世話になってますシリーズ その5



「平台車」

彫刻作品、展示台、什器を運ぶとき活躍する平台車。通常の台車と違って押手はありませんが、数台使用して台車に載りきれない大きなものを運ぶこともできます。当館で平台車は「亀」と呼ばれています。理由はその姿かたちが似ているからだそうです。言われてみれば、亀に見える…でしょうか。

(美術学芸員 伊澤 朋美)

新潟県立近代美術館だより 雪椿通信 第43号

編集・発行

THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART
新潟県立近代美術館

〒940-2083 新潟県長岡市千秋3丁目278-14
TEL 0258-28-4111(代) FAX 0258-28-4115
http://www.lalinet.gr.jp/kinbi/ e-mail kinbi@coral.ocn.ne.jp

制作・印刷
発行日

株式会社 山田写真製版所 〒950-0064 新潟県新潟市東区松島1-5-14
2014年7月1日